



デジタル田園都市国家構想実現に向けた

# 地域幸福度（Well-Being）指標の活用について

地域幸福度（Well-Being）指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）」を数値化・可視化する指標です。

むつ市民がむつ市に住んで「心ゆたかな暮らし」を実現できるよう指標を活用し、今後の施策へ展開していくためのものです。

## デジタル田園都市国家構想

- 地方は人口減少・少子高齢化、過疎化・東京圏への一極集中、地域産業の空洞化といった課題に直面。
- これらの課題を解決するためには、これまでの地方創生の成果を最大限に活用し、地方の活性化を図る必要がある。
- デジタル技術が急速に進化している中、デジタルは地方の社会課題を解決する鍵であり、新たな価値を生み出す要素
- 今こそ、デジタル技術の実施を通じて、地域の社会課題解決と魅力向上を図ることが重要。
- デジタル田園都市国家構想は、地方の社会課題の解決と魅力向上を実現し、地方の活性化を加速するための重要な柱



# 地域幸福度（Well-Being）指標の目的

地域幸福度（Well-Being）指標は、以下の6つを目的に開発・導入されました

1

スマートシティ・まちづくりにおける  
「人間中心主義」を明確化

2

「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-Being）」  
市民の視点から数値化・可視化

3

ランキングではなく、  
自治体が「個性を磨く」機会を創出

4

WHO等の  
国際的な枠組みを導入

5

※客観と主観データの両方を活用  
無料でオープン化

6

データに基づく政策づくりや  
より政策効果の高い歳出への転換に活用し  
まちづくりに役立てる

## 主観指標

### 【アンケートによる主観データ】

- 各自治体が集めたアンケートデータが元になる
- 「幸福感（Well-being）」を算出したもの
- 時系列での比較に強い

## 客観指標

### 【オープンデータによる客観データ】

- 各種オープンデータ等をもとにしている
- 「暮らしやすさ」を測定したもの
- 分野間などの比較に用いる



# 主観指標と客観指標

## 主観指標

### 幸福度・生活満足度を測る4つの設問

- 1 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 2 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 3 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？
- 4 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

+

### 3つの因子群

#### 生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽  
 子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間  
 都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害  
 事故・犯罪

#### 地域の間人関係

地域とのつながり  
 多様性と寛容性

#### 自分らしい生き方

自己効力感 健康状態  
 文化・芸術  
 教育機会の豊かさ  
 雇用・所得 事業創造

## 客観指標

### 3つの因子群

#### 生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽  
 子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間  
 都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害  
 事故・犯罪

#### 地域の間人関係

地域とのつながり  
 多様性と寛容性

#### 自分らしい生き方

自己効力感 健康状態  
 文化・芸術  
 教育機会の豊かさ  
 雇用・所得 事業創造



# むつ市の地域幸福度（Well-Being）指標

**Well-Beingアンケート 総合指標**

データ取得時期(主観)

- 2024年度
- 2023年度
- 2022年度

自治体

検索

- 青森県十和田市
- 青森県三沢市
- 青森県むつ市
- 青森県つがる市
- 青森県平川市
- 青森県平内町

回答者数

1,072

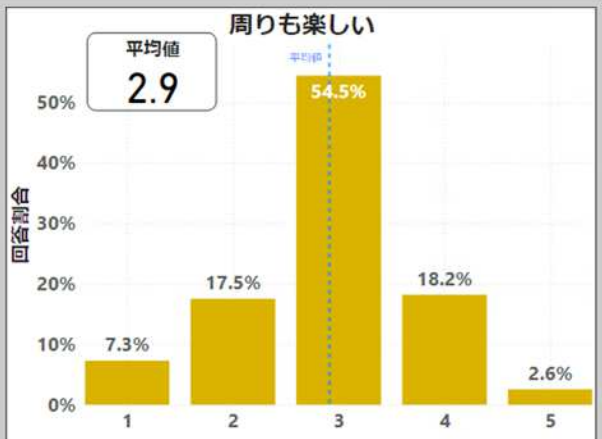
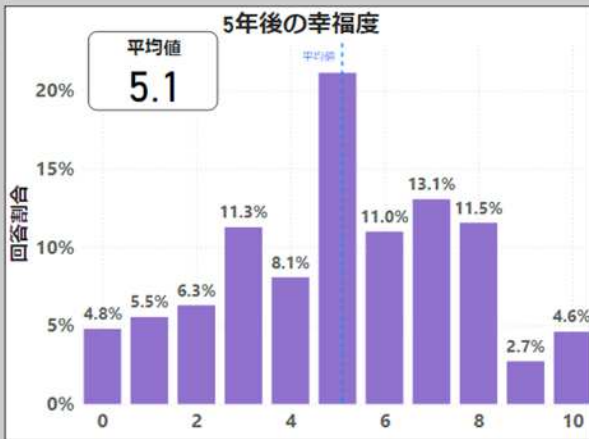
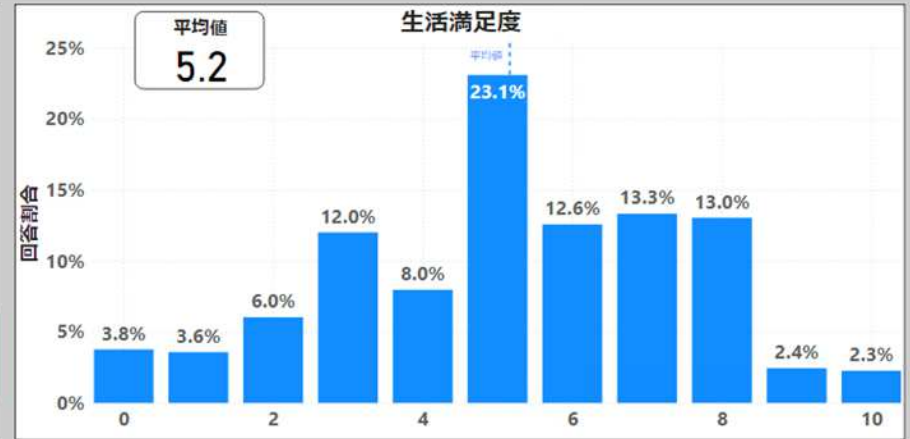
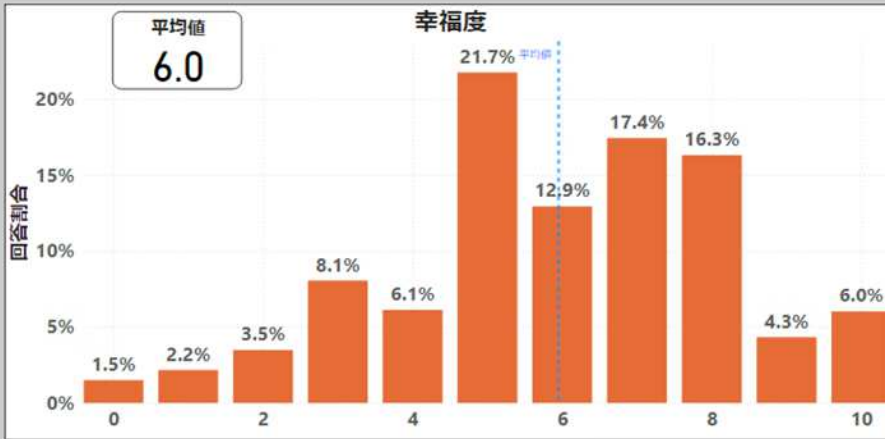
性別

8 (0....) 426 (39.7%)

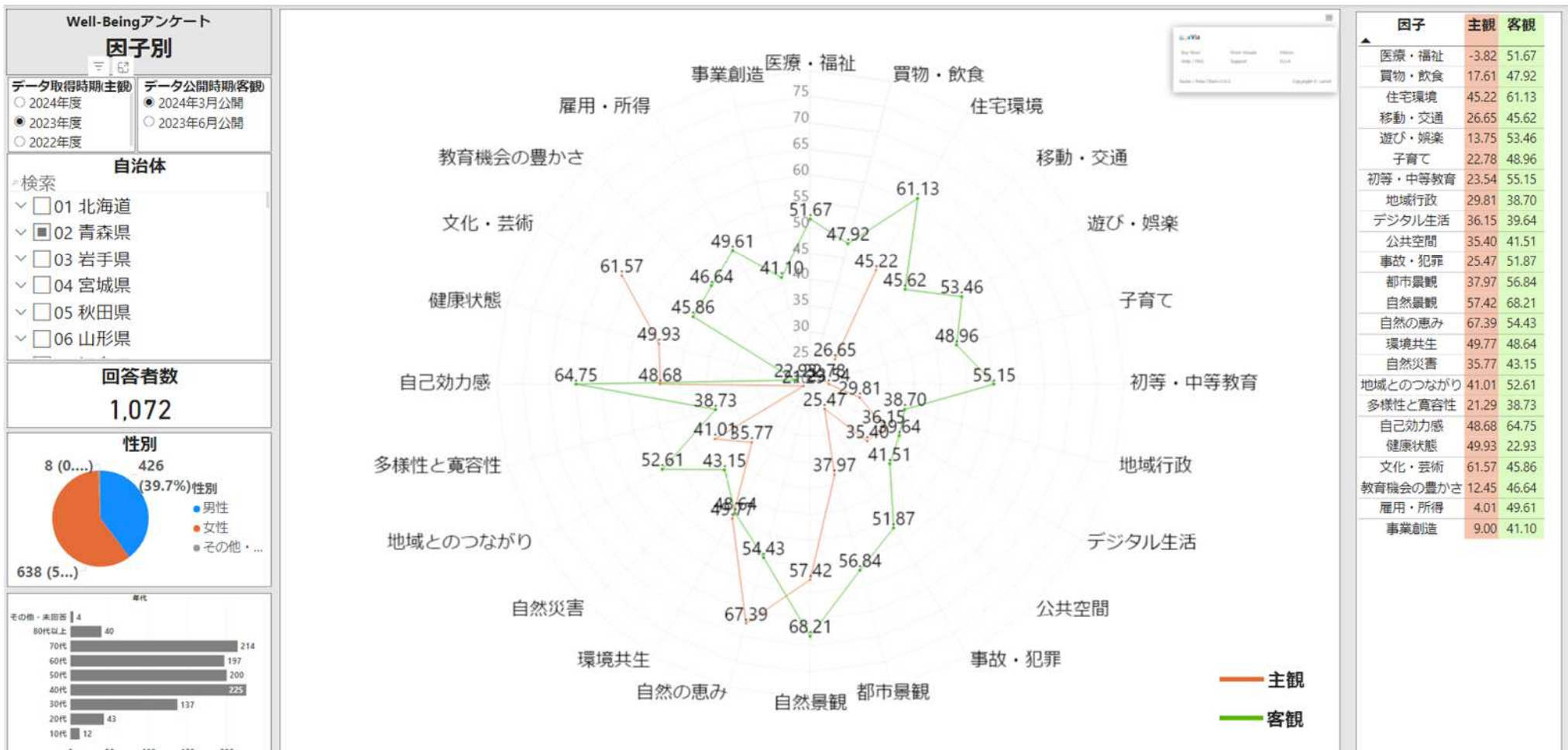
- 男性
- 女性
- その他...

年代

- その他... 4
- 80代以上 40
- 70代 214
- 60代 197
- 50代 200
- 40代 225
- 30代 137



# むつ市の地域幸福度（Well-Being）指標



# むつ市の地域幸福度（Well-Being）指標



**Well-Beingアンケート**

### 因子別

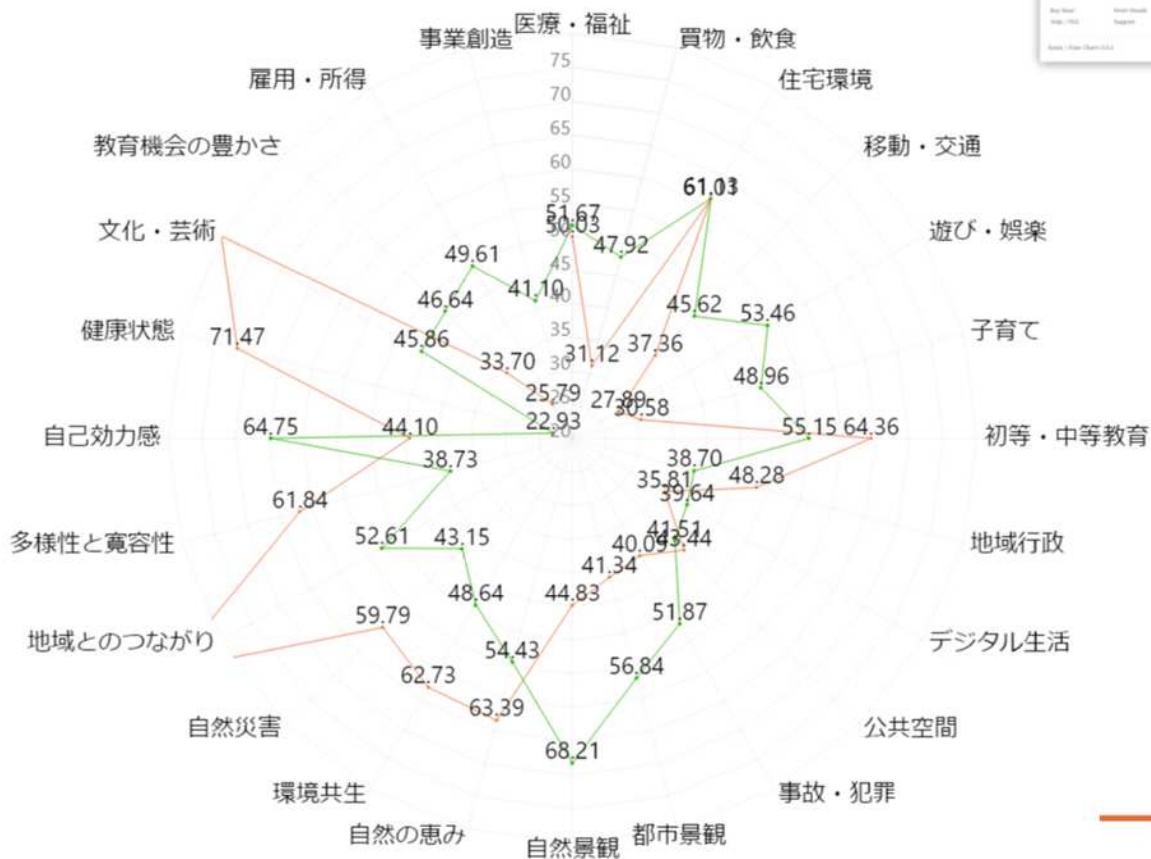
データ取得時期: 主観 (2024年度, 2023年度, 2022年度) / 客観 (2024年3月公開, 2023年6月公開)

自治体: 01 北海道, 02 青森県, 03 岩手県, 04 宮城県, 05 秋田県, 06 山形県

回答者数: **40**

性別: 7 (17...), 30 (...)

年代: 80代以上 (4), 70代 (40), 60代 (214), 50代 (197), 40代 (200), 30代 (225), 20代 (43), 10代 (12)



因子	主観	客観
医療・福祉	50.03	51.67
買物・飲食	31.12	47.92
住宅環境	61.01	61.13
移動・交通	37.36	45.62
遊び・娯楽	27.89	53.46
子育て	30.58	48.96
初等・中等教育	64.36	55.15
地域行政	48.28	38.70
デジタル生活	35.81	39.64
公共空間	43.44	41.51
事故・犯罪	40.09	51.87
環境共生	62.73	48.64
自然の恵み	25.79	54.43
自然景観	63.39	68.21
都市景観	44.83	41.34
地域とのつながり	59.79	48.64
多様性と寛容性	61.84	52.61
自己効力感	64.75	38.73
健康状態	71.47	45.86
文化・芸術	80.14	45.86
教育機会の豊かさ	33.70	46.64
雇用・所得	25.79	49.61
事業創造	19.15	41.10



# 地域幸福度（Well-Being）指標活用の手引き

## Well-beingを高めるための指標活用プロセス

地域幸福度（Well-Being）指標をもとに、①～⑥のプロセスを繰り返すことでWell-beingを高めていきます。



- 1 俯瞰**

まず、主観・客観両方のデータの俯瞰や、他の自治体との比較により、街の特徴を捉えます。
- 2 因子の探し出し**

街の特徴を把握したあとに、子育てや地域とのつながりといった合計24の因子（カテゴリ）の中から、幸福感向上のために注目すべき因子を特定します。
- 3 シナリオの可視化**

特定した因子だけでなく地域独特の情報や文化も踏まえて、市民の抱えている課題やニーズを深掘りします。各地域での取り組みがどのように市民の幸福に繋がるかを表す仮説を立て、シナリオとして可視化します。
- 4 ディスカッション**

市民の幸福感向上に繋がる施策について、どのような方法が良いか対話を基に検討します。
- 5 施策の決定**

各施策における目標値を設定し、実施すべき計画の決定をします。
- 6 モニタリング**

施策の進捗状況やWell-beingの引き上げ効果を検証する会議を設置して、改善に向けた検討を続けます。

デジタル庁HPより抜粋



# むつ市の地域幸福度（Well-Being）指標

## 概要

人口	52,547人(R6.3)	高齢化率	35.1%
可住地人口密度	392人/km2	昼夜間人口比率	97.5%
都市の特徴・周辺地域との関わり	むつ市は、本州最北端の下北半島に位置し、面積は約864km <sup>2</sup> と青森県内最大。下北半島唯一の市として1市1町3村からなる下北地方の中心となる商業都市。		
将来都市像	笑顔かがやく 希望のまち むつ		

## サマリー

- 客観指標の偏差値において、平均値50を超えている中でも、上位3つは以下のとおり  
 自然環境（68.2）・・・国立公園の有無や景観重要樹木の有無  
 自己効力感（64.8）・・・選挙における投票率の高さ  
 住宅環境（61.1）・・・住宅の広さや持ち家率、家賃の安さ
- 一方、主観指標の偏差値において、平均値50を超えているのは以下の3つのみ  
 自然の恵み（67.3）・・・空気や水が綺麗、自然を身近に感じる  
 文化・芸術（61.6）・・・将来のため良い文化を残したい  
 自然環境（57.4）・・・自慢できる自然景観がある
- 主観指標と客観指標にある乖離を小さくすることで幸福度・生活満足度を高められる可能性があると考えられる

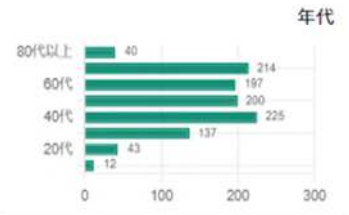
## カテゴリー別グラフ

### カテゴリー別



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

回答者数 1,072人  
 男性426人 (39.7%) 女性638人 (59.5%) 回答無し8人 (0.7%)

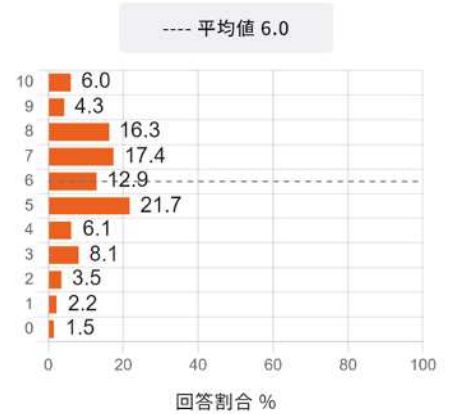




# おつ市民の幸福度・生活満足度

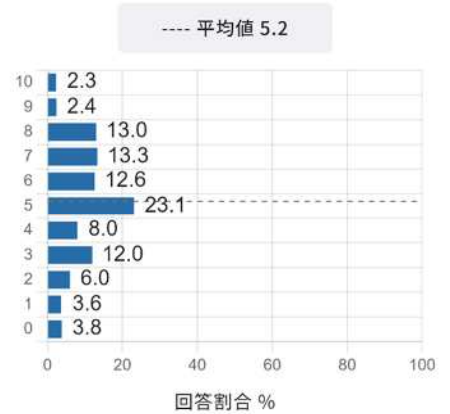


## 幸福度



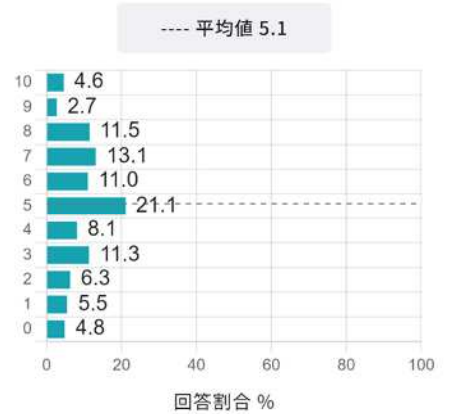
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

## 生活満足度



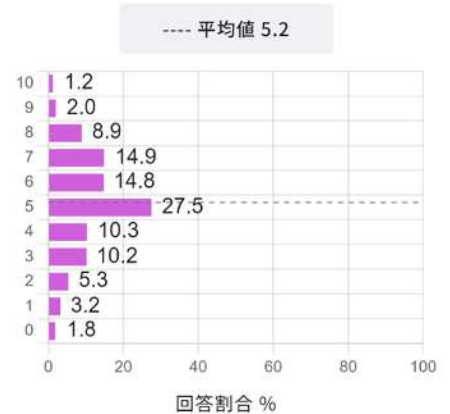
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

## 5年後の幸福度



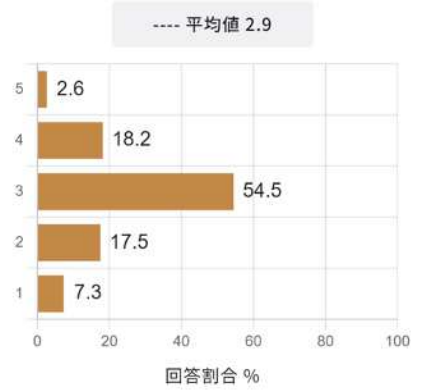
【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

## 町内の幸福度



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

## 周りも楽しい

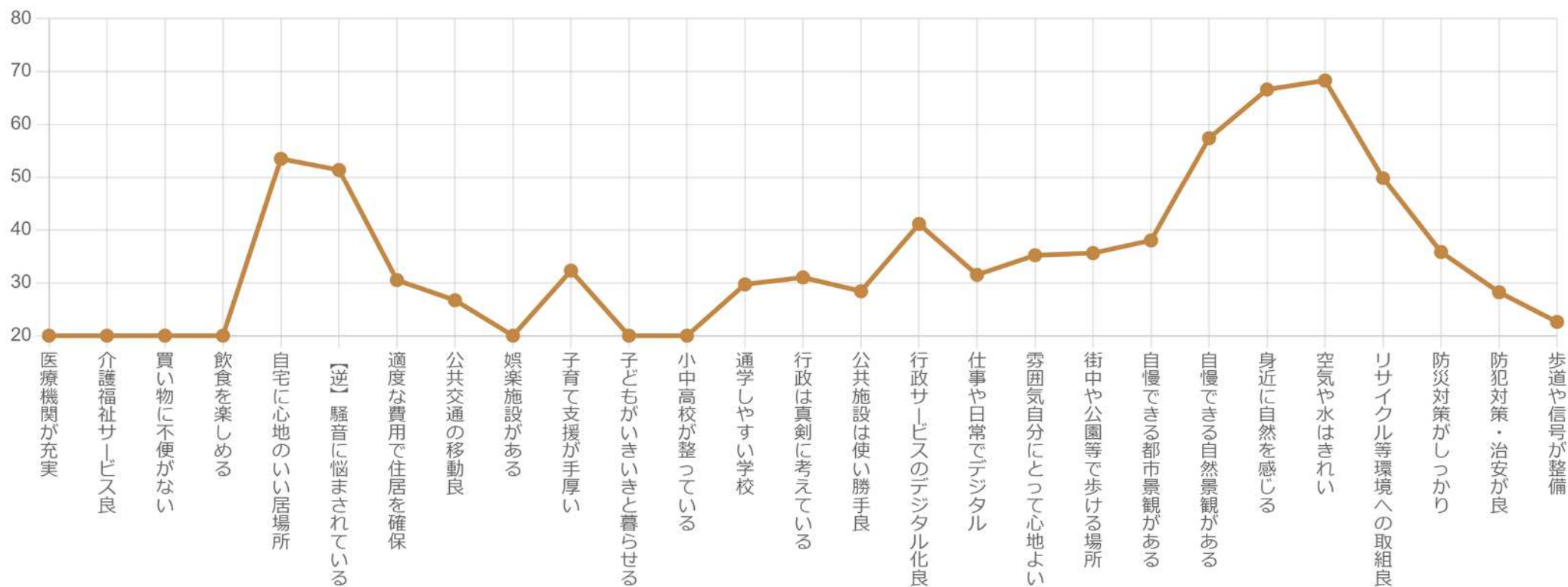


【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

# 【主観】むつ市の生活環境



## 生活環境

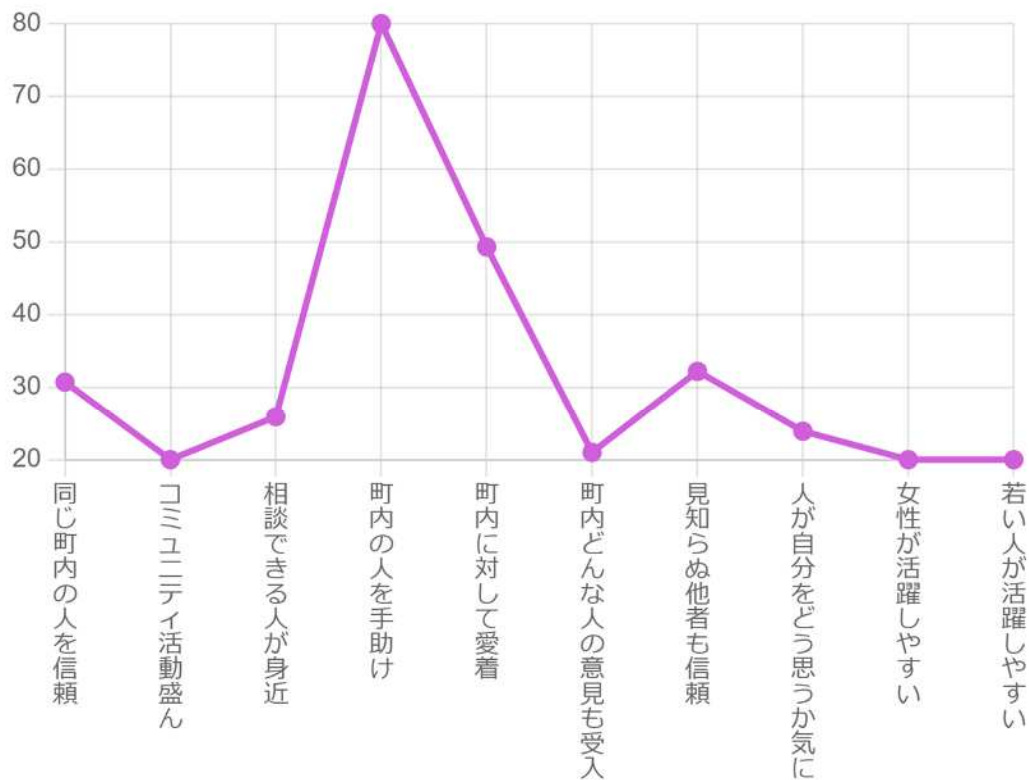


【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

# 【主観】むつ市の地域の人間関係・自分らしい生き方

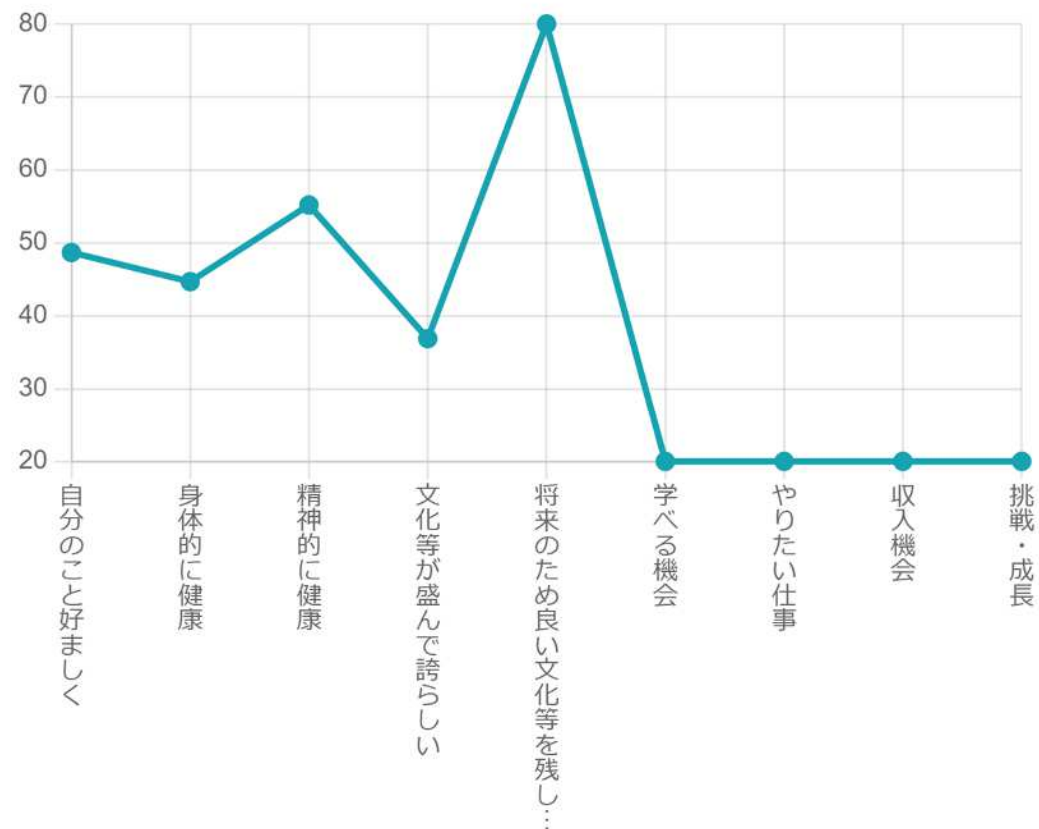


## 地域の人間関係



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

## 自分らしい生き方

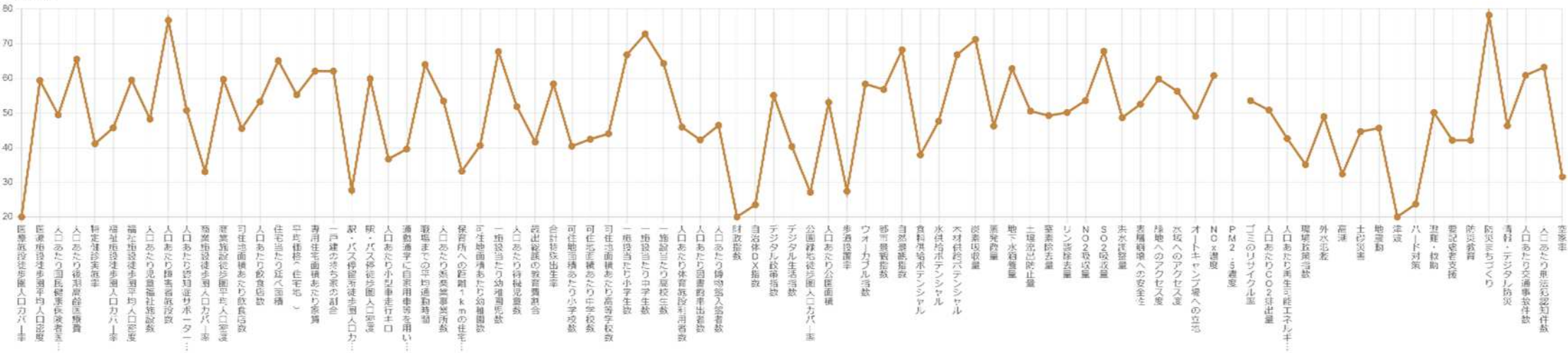


【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

# 【客観】むつ市の生活環境



## 生活環境

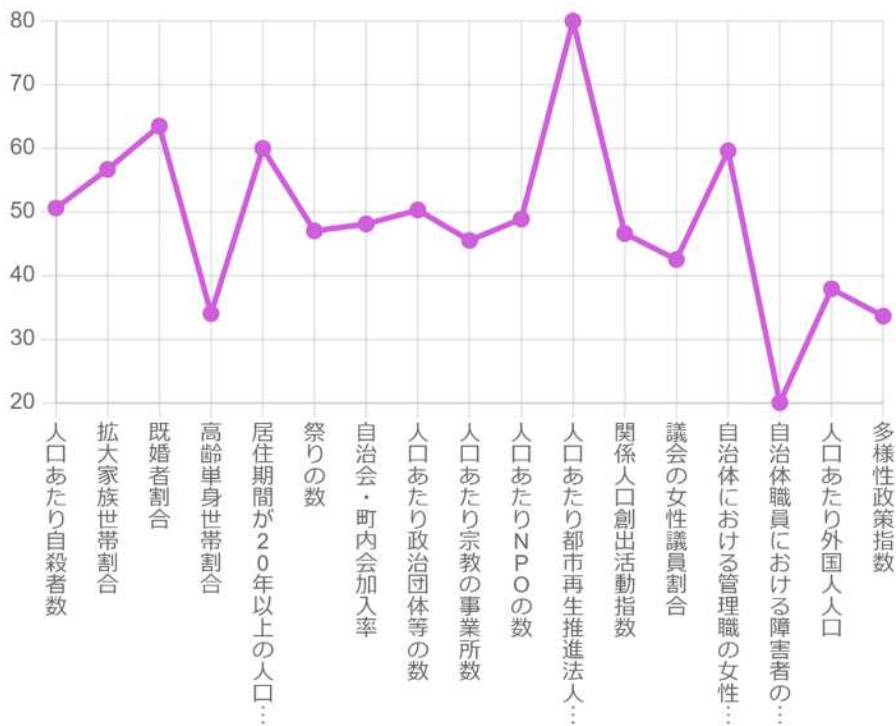


【出典】2023年度生活環境総合調査 Well-Being 19年度調査

# 【客観】むつ市の地域の人間関係・自分らしい生き方

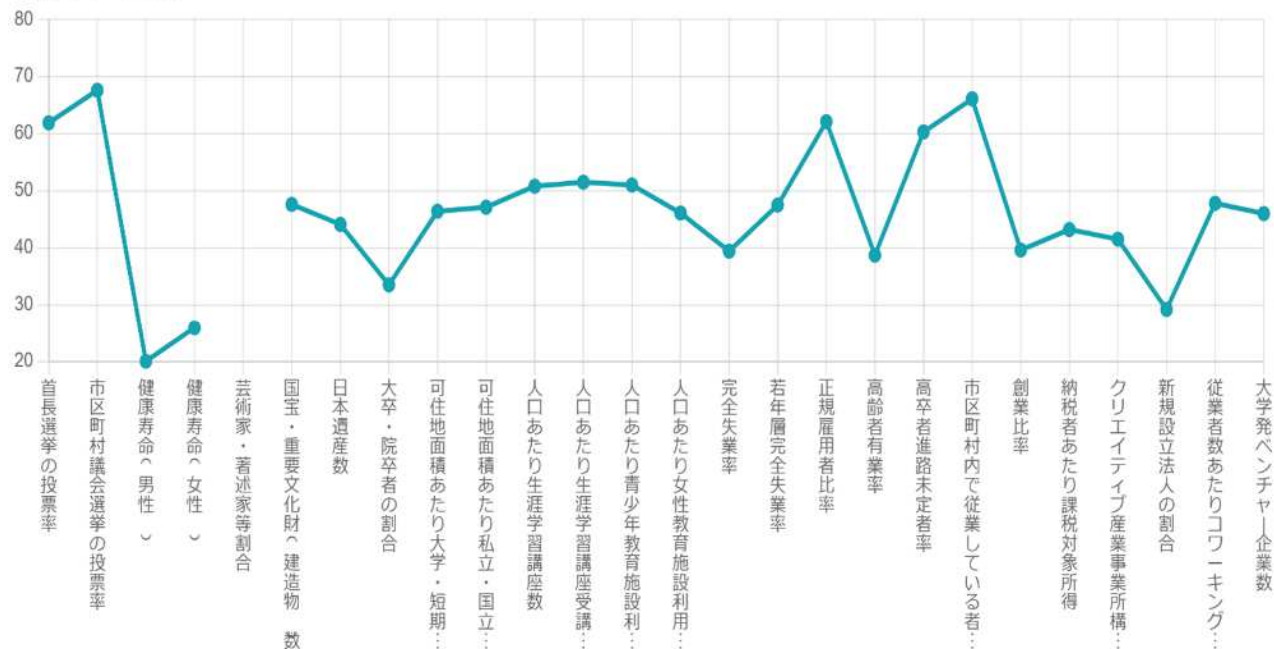


地域の人間関係



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

自分らしい生き方



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 個別調査

# 幸福度・生活満足度（Well-Being）を高める因子を探す



【SO : 主観も客観も50以上】

【ST : 主観50以上・客観50未満】

【WO : 主観50未満・客観50以上】

【WT : 主観も客観も50未満】

カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	20	51.7
買物・飲食	20	47.9
住宅環境	45.2	61.1
移動・交通	26.7	45.6
遊び・娯楽	20	53.5
子育て	22.8	49
初等・中等教育	23.5	55.1
地域行政	29.8	38.7
デジタル生活	36.1	39.6
公共空間	35.4	41.5
都市景観	38	56.8
事故・犯罪	25.5	51.9
自然景観	57.4	68.2
自然の恵み	67.4	54.4
環境共生	49.8	48.6
自然災害	35.8	43.1
地域とのつながり	41	52.6
多様性と寛容性	21.3	38.7
自己効力感	48.7	64.8
健康状態	49.9	22.9
文化・芸術	61.6	45.9
教育機会の豊かさ	20	46.6
雇用・所得	20	49.6
事業創造	20	41.1

カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	20	51.7
買物・飲食	20	47.9
住宅環境	45.2	61.1
移動・交通	26.7	45.6
遊び・娯楽	20	53.5
子育て	22.8	49
初等・中等教育	23.5	55.1
地域行政	29.8	38.7
デジタル生活	36.1	39.6
公共空間	35.4	41.5
都市景観	38	56.8
事故・犯罪	25.5	51.9
自然景観	57.4	68.2
自然の恵み	67.4	54.4
環境共生	49.8	48.6
自然災害	35.8	43.1
地域とのつながり	41	52.6
多様性と寛容性	21.3	38.7
自己効力感	48.7	64.8
健康状態	49.9	22.9
文化・芸術	61.6	45.9
教育機会の豊かさ	20	46.6
雇用・所得	20	49.6
事業創造	20	41.1

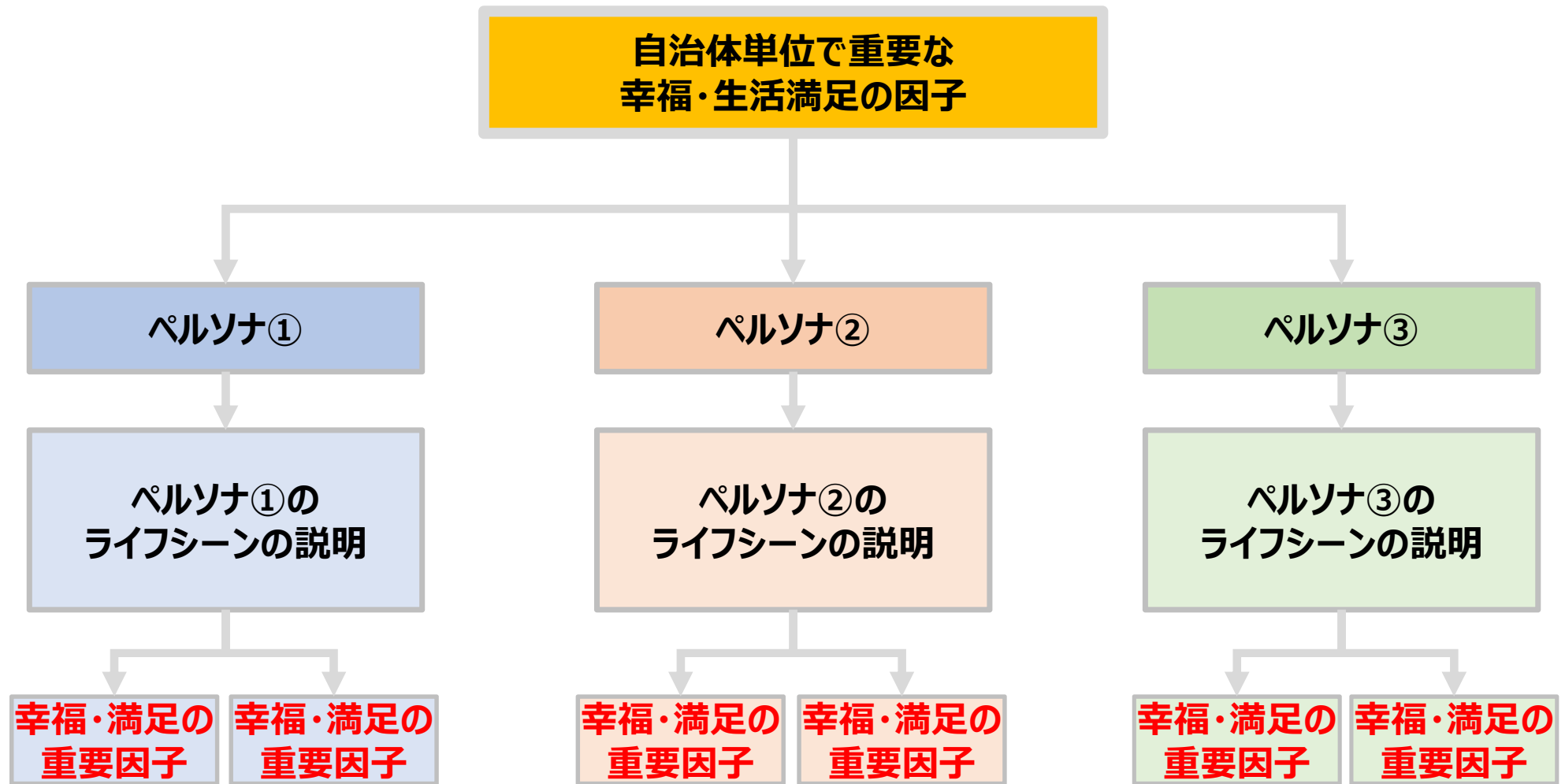
カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	20	51.7
買物・飲食	20	47.9
住宅環境	45.2	61.1
移動・交通	26.7	45.6
遊び・娯楽	20	53.5
子育て	22.8	49
初等・中等教育	23.5	55.1
地域行政	29.8	38.7
デジタル生活	36.1	39.6
公共空間	35.4	41.5
都市景観	38	56.8
事故・犯罪	25.5	51.9
自然景観	57.4	68.2
自然の恵み	67.4	54.4
環境共生	49.8	48.6
自然災害	35.8	43.1
地域とのつながり	41	52.6
多様性と寛容性	21.3	38.7
自己効力感	48.7	64.8
健康状態	49.9	22.9
文化・芸術	61.6	45.9
教育機会の豊かさ	20	46.6
雇用・所得	20	49.6
事業創造	20	41.1

カテゴリ・評価指標	主観データ	客観データ
医療・福祉	20	51.7
買物・飲食	20	47.9
住宅環境	45.2	61.1
移動・交通	26.7	45.6
遊び・娯楽	20	53.5
子育て	22.8	49
初等・中等教育	23.5	55.1
地域行政	29.8	38.7
デジタル生活	36.1	39.6
公共空間	35.4	41.5
都市景観	38	56.8
事故・犯罪	25.5	51.9
自然景観	57.4	68.2
自然の恵み	67.4	54.4
環境共生	49.8	48.6
自然災害	35.8	43.1
地域とのつながり	41	52.6
多様性と寛容性	21.3	38.7
自己効力感	48.7	64.8
健康状態	49.9	22.9
文化・芸術	61.6	45.9
教育機会の豊かさ	20	46.6
雇用・所得	20	49.6
事業創造	20	41.1

# 幸福度・生活満足度（Well-Being）を高める因子を探す



	T（脅威）	O（機会）
S （強み）	<p><b>（主観50以上、客観50未満を記載）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術</li> </ul>	<p><b>（主観と客観の偏差値50以上を記載）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然景観</li> <li>自然の恵み</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ピンク色の文字は幸福度または生活満足度と相関性がある因子＝政策介入により主観指標を高めやすい</p> </div>
W （弱み）	<p><b>（主観と客観の偏差値50未満を記載）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物、飲食</li> <li>移動、交通</li> <li>子育て</li> <li>地域行政</li> <li>デジタル生活</li> <li>公共空間</li> <li>環境共生</li> <li>自然災害</li> <li>多様性と寛容性</li> <li>健康状態</li> </ul>	<p><b>（主観50未満、客観50以上を記載）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療、福祉</li> <li>住宅環境</li> <li>遊び、娯楽</li> <li>初等・中等教育</li> <li>教育機会の豊かさ</li> <li>雇用、所得</li> <li>事業創造</li> <li>都市景観</li> <li>事故、犯罪</li> <li>地域とのつながり</li> <li>自己効力感</li> </ul>

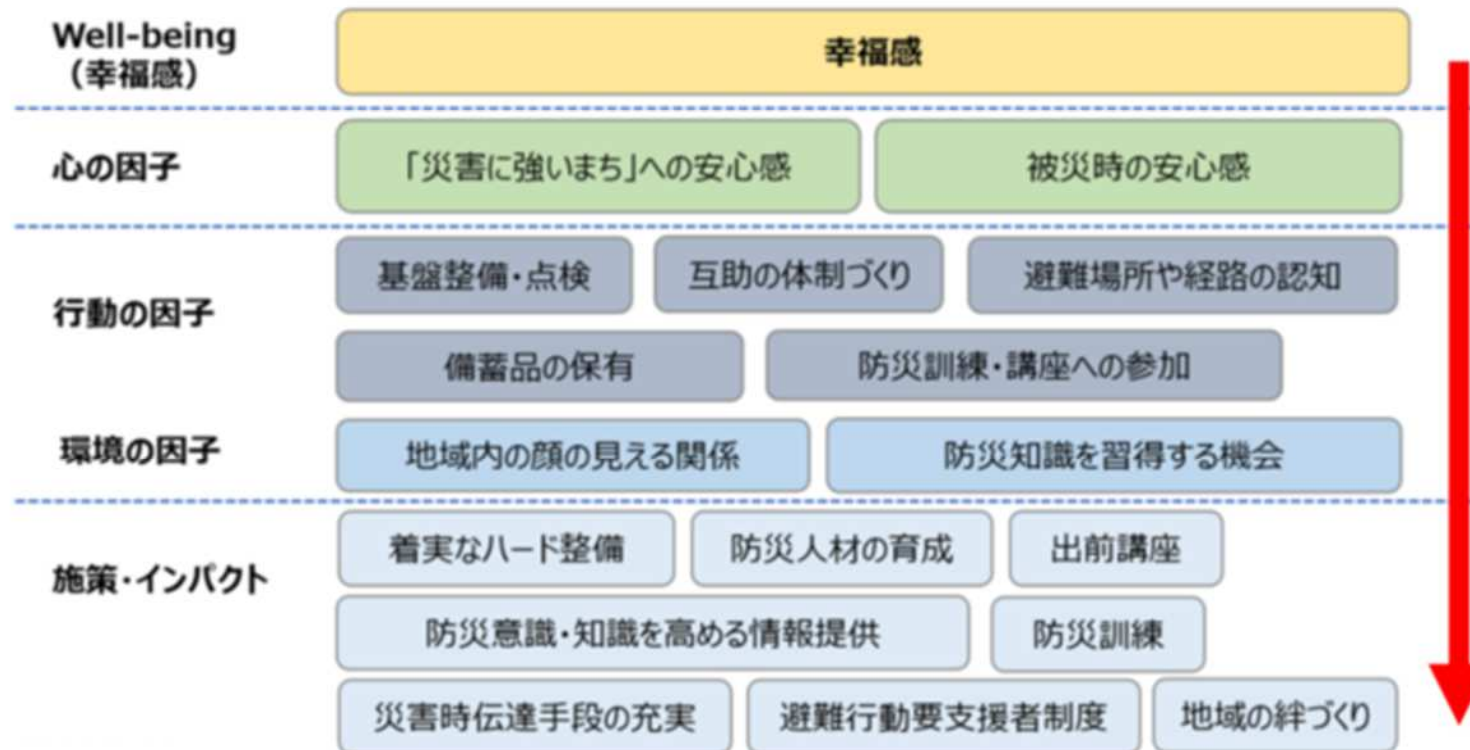






むつ市に重要な幸福と生活満足の因子を見つけたら、ロジックツリーとロジックモデルを活用して解像度（=実行プロセスの具体性）を上げる

- 加古川市では重点施策の1つである防災について、幸福感から施策にむけて、「心」「行動」「環境」の各レイヤーにおいて、影響を与える因子を検討
- 幸福感から検討を始める事で、議論が拡散したり、軸がブレる事を防ぐことができます



出典：加古川市プレゼン資料